

授業改善等に関する報告書（2020年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2020 (後期) 生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
アパレル生産	大川 知子	<p>4ヶ月に亘る授業、お疲れ様でした。アパレル製品が出来るまでの工程を、様々な角度から学んでいただき、みなさんのコメントからも好意的なものが多く、良かったです。</p> <p>但し、今回初めて挑戦したオンデマンドに関しては、授業の中でも説明をさせていただきましたが、情報環境の兼ね合いから、ZOOMよりもオンデマンドが推奨された時期に後期の授業方法を提示しなくてはならず、その後の変更が出来ませんでした。</p> <p>もう少しこちらに経験値があれば、スムーズに実施出来たであろうと思いますが、その辺り、受講生のみなさんにご不便をお掛けしたと思います。オリエンテーションの際にお話しましたが、月曜日の朝1限の授業の為、喻えオンデマンドであっても、朝きちんと起きて定時に視聴するということが大切と考え、オンデマンドの運用は、今回のようにしましたが、来年度は対面となっていますので、こういった心配は不要となりますので、安堵しています。</p> <p>来年度も引き続き、授業を受講して下さる学生の方があれば、期の途中でも、意見があれば、是非、お聞かせ下さい。そのことによって、みなさんが被る不利益は一切無く、寧ろ、より良い状況で受講が出来ると思います。4月からも、宜しくお願いします。</p>
マルチメディアデザイン演習	山崎 和彦	<p>課題には当日提出型と事前予告型があり、後者については常に3名ほどの未提出者がいた。誰もが多忙である。そうした中、期限迄にやり遂げるか否かが、学業全般ひいては社会に出た後の仕事ぶりに関わっていることだろう。</p>
色彩設計演習 a	楳 究	<p>前半の模型と後半のPCを用いたプレゼンテーションで回答も変化するかもしれませんが、説明の分かりやすさの得点が低く、成長実感や更なる学びについては得点が高いという結果になりました。分かりやすさについては、改善点だということになりますから、次年度に向けて、どんな方策が取れるか考えて見ます。</p>
色彩設計演習 b	楳 究	<p>Q6とQ7の得点が低く、Q13の得点が高いという結果になりました。最初の2つはわかりやすさ、スピードに関わるものですが、機器のトラブルが大変多く、作成したファイルが消えるという事象が頻発したことが関係しているかと思えます。次年度、安定したシステムとなるよう情報センターと連絡を取って整備して行ければと思います。Q13は、さらに学ぶ意欲を持って貰えたことを表しているのだと思いますので、素直に嬉しいです。今後も、この授業で学んだことを活かして、様々なデザインに取り組んで貰えればと思います。</p>
テキスタイル管理実践	牛腸 ヒロミ	<p>回答者は出席もきちんとしており、予習復習時間も2時間以上と十分にとっているにもかかわらず、まあまあとほぼ理解できたという回答で、十分に理解できたという回答がなかった。教え方の工夫をしたい。回答率が低かったのは可もなく不可もないという学生が多かったためか。できるだけたくさんの方に回答してもらえようこちらも工夫すべきと考える。</p>
生理学	山崎 和彦	<p>遠隔方式ゆえに学生の反応も遠隔的に判断する他ない。それでも、ただ単位が欲しいだけなのか、多少は興味を抱いているのかといった違いについては、何となく分かる。両群共に単位を得て卒業して行くわけだが、人生のどこかで差が生じているのであろう。</p>
繊維高分子材料実験	加藤木 秀章	<p>実験は楽しいものです。自らが証明していくことや調べていくこと、まとめていくことは重要です。また、わからない単語などがあれば、空いている時間で調べてみると学修効果が高まります。</p>
建築構造	橋 弘志	<p>建築構造は、基礎からの理解の積み上げと反復練習による蓄積が必須です。授業を受けて、きっちりと復習に臨んでいた人は、おおむね理解が進んだように思います。今回ははじめてのオンライン（双方向）授業で、授業冒頭の確認テスト・再テストの方法がちょっと複雑な仕組みになってしまいました。また、SAを置いて、不明点など質問できるようにしていましたが、対面では気軽に質問できることが、オンラインではちょっと質問しづらい部分があったかもしれません。</p>
アパレルデザイン実習 a	川上 梅	<p>同じ授業内容の水曜クラスと比較すると、この火曜クラスでは、説明が分かり易い、さらに専門的に学びたいという2項目の評価が、-0.56、-0.30と大きく低下しています。この理由の一つには、アパレルに対する興味関心に、元々、差があるような気がします。しかし、自分の成長が実感できた(4.45)、総合的に判断して授業に満足(4.18)と、この火曜クラスも授業にはほぼ満足であったと理解します。今後は何の懸念もなく、対面授業ができるようになることを願っています。</p>

[2020（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
生活環境科学	塚崎 舞	身近な自然環境と人間の生活環境の関係を考えるきっかけとなるように、テーマを区切って講義をしました。皆さんからはそれぞれ、どのテーマに興味があるかよくわかる反応があり、こちらも、皆さんの考えを知るきっかけとなりました。とくに防災については他の授業であまり取り扱っていなかったのでしょうか？ご自身の日常や、今後の学生生活に、身につけた知識と考えをいかしてください。
色彩学	植 究	全体的に平均的な評価でしたが、「もっと学びたい」というQ13の得点が高かったのは嬉しかったです。ただ、色々と言を貰いました。録画を忘れることが多かった、スライドの順番と資料の穴埋めの順番がずれることがある、授業でやっていないことも小テストに出す、など。これらについては、反省として、次回に活かしたいと思います。
テキスタイル材料実験	加藤木 秀章	テキスタイルが多用されている時代です。身近なものにふれ、どのような評価が必要なのかなどを考えてみると、より学修効果が高まります。
生活空間設計製図2	橋 弘志	さまざまな課題に対して自分でデザインを考え、形にしてプレゼンテーションするのは、設計製図の醍醐味です。ぜひ製図3まで続けて履修することをオススメします。
消費科学	大川 知子	4年間の最後の授業、お疲れ様でした。レポートの課題が多く、大変だったと思いますが、世の中の様々な事象に触れ、興味を持てただけなら良かったです。こちらの反省としては、これまで余りmanabaを活用して来なかった為に、課題や配布資料等のアップロードがバタバタで、みなさんにもご迷惑をお掛けしました。今回の経験を、来年度活かします。みなさん、大変熱心に受講して下さい、ありがとうございました。
テキスタイル材料学	加藤木 秀章	なかなか難しいこともあったと思いますが、調べてみると簡単なときがあります。予習復習すると学修に効果があります。
人間工学	佐藤 健	初めての授業運営手順どうでしたか？ いろいろありますから、いろいろな価値観を認識するのも大切です
アパレルデザイン実習 a	川上 梅	（オンデマント+双方向）の組み合わせではありましたが、特に、説明が分かり易く(4.38)、自分の成長を感じ(4.38)、さらに専門的に学びたい(4.12)、総合的に判断して授業に満足(4.25)という評価には、皆さんが積極的に授業に取り組んだ結果であると、嬉しく思います。今後は何の懸念もなく、対面授業ができるようになることを願っています。
繊維高分子材料学	加藤木 秀章	生活環境で繊維は身近なものであり、どの分野でも使われる必須のものです。予習・復習を行うと、より授業内容がわかりやすくなります。
ファッション企画論	川上 梅	受講後の感想には、有意義で満足という意見と、難しかったという意見の両極が見られ、レポートの提出状況にも反映されていました。内容は、事例研究の紹介を通じてファッション生活を理解すると共に、商品企画の知識を体系的に学ぶというものでしたが、オンラインのため、やる気・理解度の個人差が大きく開いてしまったように感じます。すぐに質問ができる環境、丁寧な説明が必要であることを感じています。
消費生活学	杉本 公枝	授業アンケートを拝読し、「シラバスの内容や到達目標と一致しているか」について、肯定的に評価されておりましたが、課題も明確になりました。今後は、各回の授業内容を再整理して簡潔で分かりやすい説明を行っていきたいと思います。さらに、授業を振り返ったときに説明のポイントがしっかりと頭に残るように授業の構成及び資料を改善していきたいと思っています。

[2020（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
インテリアデザイン論	山口 照也	<p>まず、レポート課題提出結果についてコメントします。</p> <p>① 皆さんが課題対象とした空間の割合は、個人生活空間51%、共同生活空間37%、1R住居11%、住居全体1%、生理衛生空間0%で、昨年度より個人生活空間を対象にした人が大幅に増えているのが今年度の特徴です。共同生活空間を課題対象にすると我がままな判断ではなく客観的な判断が必要になるので課題対象にして欲しかったです。</p> <p>② インテリアデザインの分析考察項目の割合は、あかり12%、家具11%、床10%、素材色彩9%、窓8%、出入口8%、屋内環境・設備8%、ファブリックス8%、行為8%、寸法6%、心理6%、壁3%、天井1%、かたち1%、架構1%です。あかり、家具、素材色彩は毎年度ベスト3ですが、今年度は床がベスト3に入り、素材色彩と逆転しました。</p> <p>③ レポートのみでの評価は、A+評価0%、A評価12%、B評価36%、C評価35%、D評価14%、未提出4%という結果でした。平均点は48/70点でBに近いC評価です。昨年度よりA評価が減り、D評価がわずかに増えています。D評価は、課題要項を守っていなかったり、客観性がなく感想文に近いレポートです。オンデマンド授業の影響があるかもしれません。評価には関係していませんが、デザインの思考よりコーディネートの思考のレポートが増えているようです。原点から考え、「本質を見抜く力」を養って欲しいと願っています。</p> <p>アンケート結果について、次のようにコメントします。</p> <p>① 「成長の実感の記述」と「自由記述」に33人のコメントがありました。「理解が深まった」「考える力が身についた」「課題が大変だったが成長できた」等、好評価のコメントが多かったのですが、意見や指摘が2点ありました。オンデマンド授業だとビデオを何回も見ることができるのでオンデマンド授業が良いとの意見が6人、音声にノイズがあり聞き取りづらい時があったとの指摘が1人です。私のPCのマイクが原因で、10/28日に指摘を受け、11/1日にPCヘッドセットを購入し、毎回の講義録音前にマイクチェックをしていたので問題ないと思っていましたが、PC自体も点検してみて問題が生じないように努めます。</p> <p>② 「あなた自身について」の項目で、「予習復習時間」は昨年より多くなっており、当該区分平均や全体平均より多く、「理解度」も昨年度より高くなっています。予習復習時間が多くなっているのは良い傾向です。</p> <p>③ 「この授業の内容と方法について」では、「担当教員の声や言葉の聞き取りやすさ」以外は昨年度より良くなっています。「担当教員の声や言葉の聞き取りやすさ」が低い原因は私のPCとマイクだったようなので、今後、問題が生じないように努めます。</p> <p>④ 「全体について」は、「成長実感度」は昨年度より低くなり、当該区分平均より低くなっています。本年度は演習用ワークシートを実施した人が少なかった事が原因と考えられます。「総合満足度」は昨年度より高くなっていますが、全体平均より低いです。演習用ワークシートを含めた予習復習をしっかりと行い、自信を持って取り組んで欲しいです。</p> <p>本年度はコロナ禍のリモート授業で大変だったと思います。お疲れ様でした。</p>
生活環境学演習	大川 知子	<p>アンケートの協力者が2名しかおらず、また、特にコメントも書かれていなかったもので、こちらからのフィードバックも中々難しいのですが、今期の『生活環境学演習』は、リモートということもあり、多くの方が遅刻等も無く、素晴らしい受講状況でした。</p> <p>いよいよ、4月から所属研究室での活動がスタートしますが、それぞれの場所で、引き続き頑張ってください。</p>
生活環境学演習	牛腸 ヒロミ	<p>各研究室について理解が出来たとか悩んでいたゼミを決められたとか就活についての具体的に考えるようになったとかこちらの意図が伝わったようなコメントがあった。自由記述があると受講者の気持ちがよくわかる。予習復習時間が全員1時間未満と少なかった。もう少し負荷をかけた課題を出してもよいのではないかと思います。</p>
生活環境学演習	楨 究	<p>この授業は10名の教員で担当しているので、コメントが難しいですが、このチームのアンケート結果を見ると、全体に高い点数を付けてくれている中で、「さらに専門的に学びたい」の点数が低かったのが気になります。専門を学ぶ楽しさを伝え切れていなかったらどうか。3年生で各ゼミに入った所で、その楽しさを感じられるようなプログラム作りを考えたいと思います。また、2021年度のこの授業について、どうするのがいいか、先生方とディスカッションしてみたいと思います。</p>

[2020（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
		<p>まず、レポート課題提出結果についてコメントします。</p> <p>① 皆さんが課題対象とした生活空間の割合は、個人生活空間52%、共同生活空間36%、1R住居8%、生理衛生空間3%、住居全体0%で、昨年とほぼ同じ順位でしたが、自分がコーディネーター兼クライアントになれる自室（個人生活空間）を対象にした人が昨年度より減ってはいますが半分以上を占めています。他者の立場になって考えなければならない「共同生活空間」を対象にする人が増えて欲しいと願っています。</p> <p>② インテリアコーディネートの分析考察項目は、課題要項では2項目以上でしたが、全項目を実践すると「より望ましいインテリアコーディネート」になるはずなので、今後役に立てください。今年度の割合は、家具39%、照明25%、ウィンドトリートメント11%、寝装寝具7%、内装材5%、住宅設備機器4%、インテリアオーナメント4%、建具3%、エクステリアエレメント1%、造作物品1%でした。上位の家具、照明、寝装寝具、ウィンドトリートメントは、生活者自らコーディネートする機会が多いので、コーディネーターを目指す人はこれ以外のエレメントをコーディネートできる必要があります。</p> <p>③ レポートのみでの評価は、A+評価3%、A評価11%、B評価38%、C評価28%、D評価14%、未提出6%という結果でした。平均点は49/70点のB評価で昨年度より僅かに高くなっています。D評価は、課題要項を守っていなかったり、客観性がなく感想文に近いレポートです。オンデマンド授業の影響があるかもしれません。</p> <p>アンケート結果について、次のようにコメントします。</p> <p>① 「成長の実感の記述」と「自由記述」に13人のコメントがありました。「理解が深まった」「知識が増えた」等、多くは好評価のコメントでしたが、指摘が3点（2人）ありました。大学教室でのZoom授業だと私語や音量調節ができずに聞き取りづらかったとの指摘、Zoom授業やオンデマンド授業時にノイズや音量不足で聞き取りづらい時があったとの指摘です。この2点は、私のPCのマイクが原因で、10/28日に指摘を受け、11/1日にPCヘッドセットを購入し、毎回の講義録音前にマイクチェックをしていたので問題ないと思いましたが、PC自体も点検してみて問題が生じないように努めます。もう1点、スライドで色が多いと自分のPCで見ると目がチカチカして見づらかったという指摘でした。これは近年「色彩のバリアフリー」も大事になってきているので、事前に学生の画面状況を確認した上で進めていくように心掛けたいと思います。</p> <p>② 「あなた自身について」の項目で、「予習復習時間」は昨年より多くなっていますが、当該区分平均や全体平均より少ないです。「理解度」は当該区分と全体平均より高く、且つ昨年度より高くなっているのは良い傾向です。「欠席回数」が当該区分平均や全体平均より多いのは皆さんで改善して欲しいです。</p> <p>③ 「この授業の内容と方法について」の各項目は、「担当教員の声や言葉の聞き取りやすさ」以外ほとんど当該区分平均や全体平均より高く、且つ昨年度より高くなっていて良い傾向です。「担当教員の声や言葉の聞き取りやすさ」の原因と改善方法は①に記載の通りです。</p> <p>④ 「全体について」では、「専門的に学びたい」以外は当該区分平均や全体平均より低くなってしまいましたが、昨年度より高くなっているのが救いです。演習用ワークシートを実施した人が少なかったのが原因と考えられます。小テストだけでなく、演習用ワークシートを実施すると実践的スキルも身につく、予習復習時間を増やす事にもつながるので、是非やって欲しいです。</p> <p>本年度はコロナ禍のリモート授業で大変だったと思います。お疲れ様でした。</p>
インテリアコーディネート論	山口 照也	
生活環境学演習	山崎 和彦	<p>11名中2名が回答されたとなると、こちらも20文字程度でコメントしたものとかが思うが、そういうわけにも行かない。さて本科目は「ゼミ選択」を主目的とするものである。遠隔と対面の混在方式でもってどれほど我が意図が伝わったのかよく分からないが、私としては曝け出したつもりである。</p>
生活環境学セミナー	大川 知子	<p>こちらの呼び掛け方が不足した為、2名の方から回答でした。特に、後期はルミネとの産学プロジェクトで、みなさん本当に大変だったと思います。先方の方々に「熱意溢れる発表に感動！」と言っていただけるレベルの到達出来たことは、誇れることだと思います。4年生になっても、引き続き、頑張っていきましょう。</p>
生活環境学セミナー	加藤木 秀章	<p>提出者がいないため、記述なし</p>
生活環境学セミナー	川上 梅	<p>後期授業では造形活動などは行わず、文献購読を行いました。また、オンラインであったため、直接触れ合う機会がなく、皆さんが期待していたゼミ活動とは少し違ったかもしれません。一方で、「この科目をさらに学びたいと思った」は4.2と比較的高評価であったことは、卒業研究に繋がるゼミ本来のあり方ではないかと期待でき、満足感を覚えます。今後は、できるだけ対面で授業を行いたいと思います。</p>

[2020（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
生活環境学セミナー	牛腸 ヒロミ	エクセルやパワーポイントを人並みに使いこなせるようになったとの回答があったので、前期の目的は果たせたことが分かった。 授業の内容や方法については改善してほしい点を具体的に書いて欲しかった。よりよい授業にするために、学生の積極的な意見を聴きたいと思う。
生活環境学セミナー	佐藤 健	学会発表もしました。どうでしたか？たまにはいい刺激と思ってもらいたいです。
生活環境学セミナー	橋 弘志	ゼミ1年間、いろいろ活動行いましたが、お疲れさまでした。卒業研究も頑張りました。
生活環境学セミナー	植 究	2名のみのお返事でしたが、すごくいい点数でした。 常磐祭の時など、みんなで頑張ったので、楽しく頑張れたということだと解釈します。 4年生になっても、よろしく。
生活環境学セミナー	山崎 和彦	欠席率は従来より低く、遠隔方式がもたらす効果といえる。また木曜は、この科目だけの学生が多いので、1コマのために登校するとすると、こちらは心痛を覚えるが、それから解放された1年であった。ただし体育祭、ゼミ恒例の焼肉会、新年会などが開催されず、まったく淡々とした一年であった。
デザイン基礎演習 d	橋 弘志	今回から始まった演習科目で、想定通りに進まないこともありましたが、模型の造り方の基礎を身に付け、自分でデザインし表現する、という目標には、おおむねどおり着いたかと思えます。作成した立体を平面におおすプロセスは、せつかく作った現物があるので、もう1ステップ加えて理解を進めるようにしても良かったかと思えます。今までになかったタイプの演習ですが、空間を操作する力が少しでも身につけてくれると良いと思えます。
住居デザイン論	橋 弘志	例年は授業の中で実際に身体を使って体験しながら演習的に学ぶ部分が、オンラインだと、ひとりですること限定され、なかなか難しい部分がありました。それでも、全員のデータをもとにしたり、実際に図として描いて提出されたものを画面共有で提示したり、他の人の様子がわかることについては好評だったように思えます。板書をあとで掲示板にアップして見られるようにしたことも高評価であり、対面でも似たようなことが可能かどうか、模索してみようと思えます。
		4ヶ月に亘る授業、お疲れ様でした。みなさんの身近にある「ファッション」を、「ビジネス」の視点で捉えるアンテナが立ったとしたら、この授業の目標は達成出来たと思えます。 コメントも多数寄せられ、記入の協力、ありがとうございました。但し、今回初めて挑戦したオンデマンドに関しては、授業の中でも説明をさせていたいただきましたが、自分自身も初めての経験で、結果として、確かにZOOMの方が受講生／教員双方にとって負担も少なかったと実感しています。小テストの運用も含め、もう少しこちらに技術があれば、スムーズに実施出来たであろうと思えますが、その辺り、受講生のみなさんにご不便をお掛けしたと思えます。幸い来年度は「対面授業」ですので、その点は改善出来ると思えます。
ファッションビジネスの世界	大川 知子	コメントの中に「課題の回答の分量で評価が決まるのか」という問い合わせがありました。決して、そうではありません。基本的に内容ありきですが、その方が仰っていると思いき課題を見直しましたが、その時は、「内容」と「量」が揃っている方が多かったようでした。「量で決まるのであれば、文字数を設定して欲しい」とのご要望ですが、文字数を満たしても、内容の無いものは評価出来ません。何か条件を設定すれば、みなさんとしてはやり易いと思えますが、同じ設問に対し、あれだけ多様な受け止め方があるということを知ることも学びのひとつだと考えます。 課題を共有したのは、その上で、次に取り組む機会がある時に、おひとりおひとり、どう改善すべきなのか、或いは今迄のやり方で行くのか、それを自分自身で考えることも大切だと考えているからです。1回1回の授業が、そういう成長のひとつの過程と思い、授業をしています。 来年度も引き続き、授業を受講して下さる学生の方があれば、期の途中でも、意見があれば、是非、お聞かせ下さい。そのことによって、みなさんが被る不利益は一切無く、寧ろ、より良い状況で受講が出来ると思えます。 「授業名と内容が、イメージと違った」という方もいましたが、授業を選択する際にはシラバスをよく読んでから受講しましょう。4月からも、宜しくお願いします。

[2020（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
福祉住環境論	橘 弘志	今回の授業は、オンライン（双方向）メインでしたが、教室にもある程度の人が集まったため、教室での講義をzoomで配信するハイブリッドな形で行うこととなりました。結局パワーポイント中心の授業に切り替えて、何とか授業を終えることができました。なるべくチャットなどで履修者から意見を聞きながら進めていきましたが、教室での対面とのハイブリッド形式の授業だったので、試行錯誤状態で進めていくことになりました。
生理人類学実験	山崎 和彦	実験科目ゆえにレポート提出が必須となる。然るに、これに応じない者が少なくなかった。恐らくこの授業評価にも加わっていないのであろう。やがて卒業論文を執筆する時に至り、悔やむかも知れないが、得てして人生とはそういうものである。
生活環境基礎c	塚崎 舞	本来ならば、実験実習も織り交ぜながら授業を進める予定でしたが、今年度の履修生の皆さんは、ちょっと伝わりにくい話も、よく聞いて、課題に取り組んでいたと感じています。 計算や単位の考え方が苦手で、課題では解答できていても試験ではうまく計算できなかった、という方が多く見られましたので、今後の学生生活の中で、この授業の知識と技能を思い出しながら、慣れていってください。あくまで、「最初の一步」の授業です。これから頑張ってくださいね！
マーケティング論	大川 知子	4ヶ月に亘る授業、お疲れ様でした。レポートの課題が多く、大変だったと思いますが、みなさんのコメントを拝見すると文章力や書くスピードがアップした他、社会のことに関心を持てるようになった等、嬉しいコメントもありました。 後期の授業では、「オンデマンド+ZOOM」を選択したのですが、結果、オンデマンドは高度なスキルが必要で、その辺りが追いついていなかったことを自認しています。また、課題のフォーマットのアップロードが上手く行かず、時々バタバタしてしまったことは反省事項です。それでも、今回の学びが、少しでもみなさんに役立てていただけたら幸いです。
I C T 基礎演習	佐藤 健	サーバー作りどうでしたか？今後の活動も楽しみにしてください